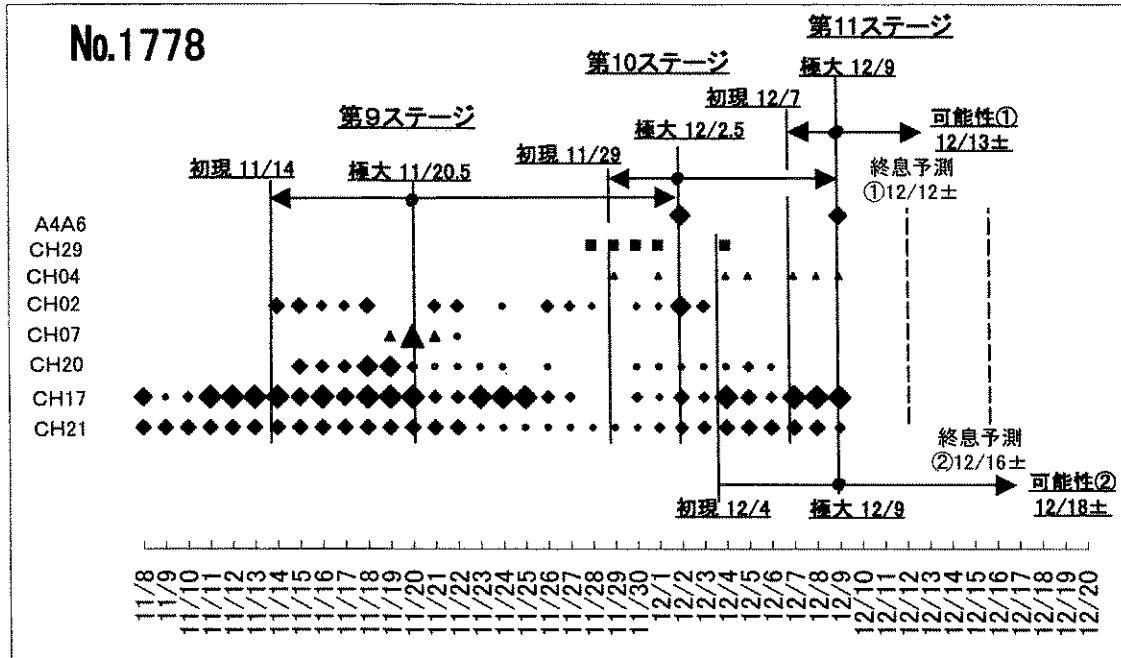


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 続報 12月9日未明にピーク出現 短いタームでステージ出現か？



No.1778長期継続特殊前兆は、第9ステージが示した12月02日にピークが出現し、第10ステージに移行しました。第10ステージの初現が11月26日か11月28日かの判断が難しく、前兆終息を待っている現況でした。

ところが、本日12月09日未明、秋田観測点のM<sub>4</sub>, A<sub>6</sub> が12月02日のピークと同様、再び特異状態出現。この12月09日のピーク出現事実から、第10ステージの初現認識が間違っていた可能性が濃厚です。CH04の直接波近似変動再出現開始の11月29日を初現とし、12月02日のピークの関係でT<sub>fap</sub>:T<sub>map</sub>=20:13で計算しますと、12月09日が算出されます。12月09日のピークと合います。従って、12月09日ピークは第11ステージと認識されます。

では、次に第11ステージの初現はいつか？と云うことが重要です。上図に記入したとおり、CH04直接波近似変動継続出現開始、CH17系状特異顕著化の12月07日が初現である可能性がひとつ考えられます。この場合は、12月12日前兆終息で12月13日を

示すこととなります。もうひとつの可能性は、CH04やCH17の顕著化日の12月04日を初現認識した場合です。この場合は、12月16日±に前兆終息で、12月18日を示すこととなります。下に関係をまとめます。

(T<sub>fap</sub>:T<sub>map</sub>=20:13) (T<sub>fap</sub>:T<sub>pp</sub>=6:1) 推定日  
①初現12/7の場合 — 極大12/9 — 終息予測12/12± → 12/13±  
②初現12/4の場合 — 極大12/9 — 終息予測12/16± → 12/18±

本日はCH21特異は、やや静穏傾向にあります。CH17系状態特異は12月07日未明から完全に24時間系状態が継続しています。第9ステージ、第10ステージのT<sub>map</sub>日数の減少率からは第11ステージは①の可能性の方が考えやすいですが、確定は困難です。①の場合は12月12日昼頃終息が確認されることとなります。12日午後～夜迄に終息しなければ、②の可能性が高いこととなります。実際に観測したいと考えます。

※E-mailとFAXで日々配信しております。他の地震前兆観測も含めた「地震前兆検知実験観測情報・地震前兆検知公開実験」では、12月12日終息の有無は即座に配信報告できますが、PHP新書読者の皆様への本HPにはHP担当の方の仕事の都合で12日夜に更新できるか不明です。間に合わない場合はどうかご了承下さい。

②の可能性となった場合も含め、続報は更新予定です。

◆推定領域：右図 太線領域内=大枠推定領域  
斜線領域=可能性が考え易い推定領域  
※影響局誤認の場合は東北領域(可能性低い見解)

◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：実際の前兆終息を観測した後、推定予定  
可能性①12月12日に終息した場合=12月13日  
可能性②12月16日に終息した場合=12月18日

◇推定地震種：震源が浅い日本列島の地殻地震  
◇推定発生時刻：午前09時±1 (又は午後06時±3)

